第五回　全国俳句大会　最終選句のご紹介

選句、選評　佐々木　建成（俳人・天穹俳句会名誉顧問）

受賞	会員氏名（敬称略）	支部名	選句
会長賞	長畑　俊二	中国四国	母白寿ここよ四葉のクローバー （選評）元気に白寿（九十九歳）を迎えられたお母さんはまだまだ気持ちは若々しく、幸せの象徴の四葉のクローバーを見つけて少女のように「ここよ」と声を弾まされたようですね。生き生きとしたリズムがこの句の魅力です。季語はクローバー（春）で、苜蓿（うまごやし）、白詰草（しろつめくさ）ともいいます。 （長畑さんより、受賞のお喜びの声）この度投句が会長賞（最優秀賞）に選出され、大変身に余る光栄を賜りまして誠にありがとうございました。この句は春のぽかぽか陽気に（ひねもすのたり／＼かな・・・）とブツブツ言いながら母親と団地内を散歩していましたら、白詰草が白寿になる母を祝うように群生しており、それを見ていた母親が、いきなり百まで頑張る！と言いながら四葉のクローバーを探して偶然にも見つけた時の心理を描写しました。今はそれを透明のキーホルダーケースに入れて大切に持ち歩いています。母親のように百歳を目指してこの句を味わっていただければ幸いです。
優秀賞	村川　義次	北海道	子供らを見かけなくなり白木槿 （選評）少子化の進展に加えて、コロナの居座りもあり、最近公園などで多くの子供たちを見かけることが少なくなったようです。季語の白木槿（秋）が寂寥感を誘ってます。
優秀賞	吉田　勝彦	関東	秋の夜の寄添うだけの介護かな （選評）親しい身内が寄り添うだけで介護を受けているお年寄りの心は和み安堵するものだと思います。夜の長くなる秋の季節ならその思いが一層強くなるでしょう。「寄添う」は「寄り添う」にしてはどうでしょうか。
優秀賞	尾張　幹	関東	弱音など吐いてはおれぬカンナ燃ゆ （選評）コロナ禍により閉塞化した昨今の社会に身を置く作者として自らを奮い立たせようとする句だと思います。「カンナ燃ゆ」は秋の季語の「カンナ」のうち真っ赤なカンナであり、インパクトが強く効果的です。
入賞	大庭　英雄	関東	もみじの手離れ風船ひとり旅
入賞	鷲澤　典子	関東	走り来る子の掌開けば蛍かな
入賞	千田　雅俊	中部	春の空番い重なり枝動く
入賞	平川　晴代	中部	新涼や刺つつみ込む水の玉
入賞	高橋　栄二	九州	久しぶり帰省かなわずテレトーク